

第 54 回クラシックを楽しむ会

2018 年 5 月 20 日（日）18:00～（1 時間 55 分、休憩除く）

タイトル：**歌劇「ヘンゼルとグレーテル」（フンパーディンク）**

ウィーン国立歌劇場公演

2015 年 11 月 22 日、29 日

会場等：ウィーン国立歌劇場

楽団等：ウィーン国立歌劇場管弦楽団

ウィーン国立歌劇場舞台管弦楽団

合唱：ウィーン国立歌劇場オペラ学校児童

ウィーン国立歌劇場バレエアカデミー生徒

指揮：クリスティアン・ティーレマン

演出：エードリアン・ノーブル

出演：ダニエラ・シンドラム（ヘンゼル/兄）

イレアナ・トンカ（グレーテル/妹）

アドリアン・エレート（ペーター/父親）

ジャニーナ・ベヒレ（ゲルトルート/母親）

ミヒャエラ・シュースター（お菓子の魔女）

アニカ・ゲルハルト（眠りの精 / 露の精）

その他



第 3 幕、檻に入れられたヘンゼルと魔女に脅されるグレーテル

あらすじ

貧困のため森にすてられた子供たちが、魔女におそわれるも自ら窮地を脱し、無事に家へ戻るといふグリム童話原作のおとぎ話のもとになっている。

ウィーン国立歌劇場データ

- ・ 座席数 1709 席（273€ ～ 6€）、立見席 567 席（4€ ～ 2€）*1
- ・ 1 シーズン（9 月～6 月）の公演数 350 公演、1 シーズンの観客数 600,000 人 !!
- ・ 歌手 488 名（うち 60 名はアンサンブル所属）、バレエ団ダンサー 104 名
- ・ 国立歌劇場管弦楽団員 144 名*2、ウィーン・フィルハーモニー団員 139 名*2（待機団員*3 含む）
- ・ 国立歌劇場舞台管弦楽団（バンド）団員 39 名*4
- ・ 付属オペラ学校（少年少女合唱団の母体）、付属バレエ・アカデミー（10 歳～18 歳）

補足。*1. 料金は参考。シーズン、公演で異なる。 *2. 定員。歌劇場団員の選ばれた団員がウィーン・フィル協会に加盟してウィーン・フィル団員になる。 *3. 待機団員は 65 歳で定年退職した元団員。 *4. 舞台上で衣装を着けて演奏したり舞台裏で演奏する。

第 55 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：**歌劇「オテロ」（ヴェルディ）**

6 月 17 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

英国ロイヤル・オペラ 2017。オテロ役は当代のスーパースター、ヨナス・カウフマンが初めて挑んだ公演。デズデモナ役は世界の一流歌劇場からオファー殺到の若きマリア・アグレスタ。演出はローレンス・オリヴィエ賞を受賞したキース・ウォーナー。指揮はロイヤル・オペラ音楽監督のアントニオ・パッパーノ。

7 月はスカラ座 2017「アンドレア・シェニエ」、8 月以降 ヴェローナ野外オペラ 2017「ナブッコ」、ザルツブルク復活祭音楽祭 2017「ワルキューレ」などを予定。

あらすじ

【時と場所】 むかしむかし、あるところ

【主要人物】

ヘンゼル(Ms)： 兄妹の兄
グレーテル(S)： 兄妹の妹
ペーター(Br)： 箒職人で兄妹の父
ゲルトルート(Ms)： 兄妹の母
お菓子の魔女(Ms)： 子供たちを魔法でおびき寄せ捕まえて食べる
眠りの精、露の精(S)： 森の妖精。眠りの精は眠りにつかせ、露の精が目を目まさせる

【第1幕】

貧しいほうき職人の夫婦ペーターとゲルトルート、子供の兄妹ヘンゼルとグレーテルが住んでいた。ある日、留守番をしていた兄妹が言いつけられた仕事に飽き、遊んでいるところにゲルトルートが帰宅する。子供たちが仕事もせずに遊んでいることに腹を立てたゲルトルートは、ヘンゼルにお仕置きをしようとして、ミルクの入ったつぼを割ってしまう。唯一の食料がなくなり困ったゲルトルートは、子供たちを森へいちごを摘みに行かせる。

ペーターが陽気に歌いながら帰宅し、食料をたくさん持って帰ったことから、ゲルトルートは機嫌を直す。しかし、子供たちが森へ行ったことを知ったペーターが、森にはお菓子の魔女が住んでいて子供を捕まえて食べてしまうと語り、心配した2人は森へ子供たちを捜しに行く。

【第2幕】

森の奥で兄妹は道に迷って帰れなくなり、日が暮れかかる。眠りの精が現れて二人を眠らせてしまう。無言劇が始まり、14人の天使たちが現れて二人を優しく見守る。

【第3幕】

露の精が現れて兄妹を目覚めさせる。朝もやが消えたとお菓子の家が現れて二人は大喜び。夢中でお菓子を食べていて、家の中から出てきた魔女に捕まってしまう。二人は魔女に食べられそうになるが、機転を利かせて逆に魔女を退治する。すると魔法に閉じ込められていた他の子供たちも助け出され、兄妹は両親と再会する。

作曲の経緯

フンパーディンク(1854 - 1921)はドイツ西部のボンとケルン近郊の生まれ。ケルン音楽院入学後は奨学金、基金を得てイタリア、フランス、スペインを旅行。ナポリでワーグナーに出会い、招かれてバイロイトに行き、ワーグナー最後の作品「バルジファル」初演を手伝った後、スペイン、ドイツの高等音楽院などで教鞭をとった。この作品が、ワーグナーから学んだ技法と、ドイツの民間伝承音楽をとり入れたメロディーで、メルヒェン・オペラという独特の分野で成功を収めたことから、オペラ作曲家となったが、現在、本作品以外はほとんど上演されない。



フンパーディンク

*参考. 2015年に日本で上演された海外オペラ作品の上位15位中本作品は7位。蝶々夫人9位、トスカ15位など。

台本はフンパーディンクの妹ヴェットェ。ヴェットェが自分の子供たちが歌える音楽劇の作曲を兄に依頼したことが始まり。ヴェットェは原作のグリム童話の残酷さを取り除き、結末を明るくし、宗教色を強めた。

*兄妹の義母を実母に変更、魔女に誘拐された他の子供たちを救出する部分はヴェットェの創作。

初演は1893年、ワイマール宮廷劇場でR.シュトラウスが指揮。大成功を収め、すぐに各国で上演。ワーグナー以降R.シュトラウスまでのドイツオペラを代表する作品といわれる。

原作のグリム童話「ヘンゼルとグレーテル」はグリム兄弟がドイツ・ヘッセン州に伝わる民話をもとにさまざまに改変、改定を重ねた童話。中世の長い大飢饉の時代、義母が父親をそそのかして口減らしのため兄妹を森に捨てる物語。兄妹は魔女につかまって食べられる寸前、魔女をかまどに蹴飛ばして焼き殺す。兄妹が魔女の財宝を奪ってやっと家に帰ると義母は病死。子供たちを捨てたことを悔やんでいた父親は兄妹が帰ってきたことを喜び、兄妹が持ち帰った財宝で金持ちに。

出演者



シンドラム
ヘンゼル

トンカ
グレーテル

エレート
ペーター

ベヒレ
ゲルトルト

シュースター
お菓子の魔女

ゲルハルト
眠りの精 / 露の精

ティーレマン
指揮

ダニエラ・シンドラム(1968 -) はドイツ・ニュルンベルク近郊生まれのメゾソプラノ歌手。ヨーロッパの主要歌劇場で、ケルビーノやオクタビアン役などの”ズボン役”、ワーグナーのヴェーヌス役など数多く歌っている。

イレアナ・トンカ(1972 -)はルーマニア・ブラショヴ生まれで、ウィーン国立歌劇場アンサンブル所属ソプラノ歌手。

アドリアン・エレート(1970 -)はオーストリア・ウィーン生まれのバリトン歌手。オペレッタやシューベルトの歌曲などの CD 多数。

ジャニーナ・ベヒレ(1969 -)はドイツ・ハンブルク生まれの南ドイツ育ちで、ウィーン国立歌劇場アンサンブル所属メゾソプラノ歌手。数多くの演目で主要な歌手として出演。

ミヒャエラ・シュースターはドイツ・ニュルンベルク近郊生まれのメゾソプラノ歌手。ワーグナー歌手としてデビュー後、各国の主要歌劇場に出演している。

アニカ・ゲルハルトはドイツ・フランクフルトで声楽を学ぶ。2013-2016 はウィーン国立歌劇場アンサンブル所属ソプラノ歌手。2016 年にはウィーン楽友協会に初リサイタルを開く。R シュトラウスの歌曲など多くのレパートリーを持つ。

クリスティアン・ティーレマン(1959 -)はドイツ・ベルリン出身の世界的に著名な指揮者。ドイツの主要歌劇場の音楽監督、首席指揮者を歴任し、バイロイト音楽祭やウィーン国立歌劇場で活躍するなど、コンサートとオペラ両面にて評価を得ている。

エードリアン・ノーブル(1950 -)はイギリスの演出家でロイヤル・シェイクスピア劇団の芸術監督を務め高い評価を得た。2014 年にはメトロポリタン歌劇場で「マクベス」を演出している。



第 1 幕 ゲルトルトとペーター

第 2 幕 ヘンゼルとグレーテル

第 2 幕 眠りの精と兄妹

第 2 幕 14 人の天使たち



第 3 幕 お菓子の夢中の兄妹

第 3 幕 お菓子の魔女

第 3 幕 解放された子供たち-終幕

カーテンコールとウィーン国立歌劇場管弦楽団